

活動プログラム

団体名（ 岡山県青年団協議会 ）

1. 事業内容

☐ 子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動
☐ 不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動
☐ 自然体験、生活体験、社会体験に関する活動
☐ 家庭教育支援に関する活動
☒ 地域課題の解決に関する活動
☒ 地域人材の育成に関する活動

※複数選択可

2. 活動プログラム名

「 被災ボランティア活動を元に、防災意識をもった地域人材を育成する 」

3. 目 標（ねらい）

※プログラムを通して、参加者に身に付けさせたい力、はぐくみたい姿等
被災者ニーズの把握や被災者支援のあり方など、被災ボランティアとして活動できる人材を育成することで社会奉仕の精神を養うとともに、防災意識の向上を図る。また、ボランティアとしての活動や被災地の現状を報告することにより、地域全体の防災意識の向上を図る。

4. 活動内容 ※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・ 活動内容 ・ 対象 ・ 参加者人数 ・ スタッフ人数 ・ 会場等	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
第1回	★被災地においてボランティア活動をする際の心得・基礎知識について学習する。 ・ 活動内容：被災地の現状把握、活動時の装備、持ち物、注意事項等を学習する。 ・ 対象：高校生以上 ・ 参加人数：27名（スタッフを含む） ・ 会場：岡山県青年館大ホール	◆被災地でのボランティア活動における注意点や被災者への配慮、自分自身の安全確保について理解し、災害に対する関心を高め、正しい知識・理解を深めるとともに防災意識を高める。（アンケート）



第
2
回

★被災地で復興支援を報告するとともに、被災ボランティア活動を通して学んだことを踏まえて、地域の防災意識の向上に役立てる方法について学習する。

- ・ 活動内容：現地活動報告、グループワーク
- ・ 対象：中学生以上
- ・ 参加人数：44名（スタッフを含む）
- ・ 会場：岡山県青年館大ホール



◆活動のフィードバックを参加者同士で行うことによって、防災意識をより高めるとともに、地域の防災力の向上についての具体的な手法がイメージできる思考力を身に付けている。（アンケート）



5. 展 開

回 時間	内 容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
【第1回】 15分	【導 入】 開会 アイスブレイク (参加者自己紹介)			被災地でのボランティアを活動するメンバーの人となりを知る
25分	【活 動①】 講義「ボランティアの心構えについて」 講師：災害 NGO ラブ&アース 池田知子 氏	資料 筆記用具	お話20分 質疑応答5分	被災地でのボランティア活動における注意点や被災者への配慮、自分自身の安全確保について理解する(アンケート)
50分	講義「活動中の安全面(怪我・熱中症)について」			活動中に考えられる危険、マナーについて理解する(アンケート)
30分	能登現地活動概要説明	資料 筆記用具		8月実施の石川県現地活動の概要について理解する。(アンケート)
5分	【終 了】 閉会			

【第2回】 5分	【導 入】 開会			
35分	【活 動①】 能登半島ボランティア活動 報告	資料	報告30分 質疑応答5分	被災地の現状や活動を通じての学びを共有することで、自身の防災意識が高まる。(アンケート)
60分	【活 動②】 グループワーク 「これから自分が家に帰って何をするか」	筆記用具 用紙 防災ハンドブック	グループごとに与えられたテーマについて考え、結果を一枚の紙にまとめる。テーマ例「自宅で地震が起こった際に避難するまでの行動について考えよう」など	自身の意見を述べることで考えを整理し、相手の意見を聞くことで新たな気づきを得る。今後の自身の生活や、地域における防災活動の意識が高まる。 (ワーク成果物、アンケート)
5分	【終 了】 閉会			